

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 入谷南 中学校 校長 遠藤 映悟

1 学校教育目標

- 1 自ら学ぶ人
- 2 豊かな心を持つ人
- 3 すこやかに生きる人

2 学校図書館の目標・ねらい ー身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度ー

- 1 学校図書館を活用し、読書に親しむ機会を設けて豊かな心を持つ生徒を育てる。
- 2 学校図書館の資料を活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- 3 学校図書館を活用し、豊かな語彙、正しい言葉遣いを身に付け、自分を表現できる生徒を育てる。
- 4 学校図書館を利用し、得た情報を活用して自らの課題を解決し、すこやかに生きる生徒を育てる。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 11,087 冊（蔵書基準冊数 10,720 冊）／蔵書率 103 %（前年度末 115 %）									
	② 新規購入図書 711 冊／廃棄図書 692 冊／増減冊数 19 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.62 %	3.17 %	10.72 %	8.98 %	9.49 %	4.72 %	2.78 %	8.78 %	5.53 %	43.21 %
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：授業使用時、月～金曜日の昼休み、放課後 17 時 15 分まで									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 15.5 冊（前々年度末： 14.1 冊）									
	③ 学校図書館利用率 2757.8 %（前々年度末： 1871.9 %）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 冊（蔵書基準冊数 冊）／蔵書率 %									
	② 新規購入図書 冊／廃棄図書 冊／増減冊数 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合										
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：授業使用時、月～金曜日の昼休み、放課後 16 時 30 分まで （前年度からの変更 あり ・なし）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 冊（前年度末： 冊）									
	③ 学校図書館利用率 %（前年度末： %）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	<ol style="list-style-type: none"> ① 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。 ② 小学校からの読書習慣をさらに向上させ、読書に親しむ姿勢を育む。 ③ 課題について学校図書を活用して調べ、解決能力の育成を図る。 ④ ビブリオバトルの実施
------	--

今年度の成果目標	達成基準
<ol style="list-style-type: none"> ① 学校図書館のきまりや仕組みを理解し利用できる。 ② 昼休みや放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して読書や学習をすることができる。 ③ 図書館の本や新聞等を活用しながら調べ、課題に対して自分の考えをもつことができる。 ④ 学年で予選を行い、学校公開時に決勝戦を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上 （昨年平均 17.63 冊） ② 各教科と連携して図書室を利用した授業を年 5 回実施 ③ 調べる学習コンクール参加 ④ 学年予選と決勝の開催

目標達成状況

- ① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上を達成することができた。（平均 17.3 冊）
- ② 国語や理科の授業で年 5 回以上図書室を利用した。
- ③ 調べる学習コンクール参加について、第1学年は参加させることができた。
- ④ ビブリオバトルを実施し、決勝戦を行った。

第2学年	① 図書委員会の呼びかけ等で図書館にさらに興味を持ち利用する。 ② 様々な分野の図書に親しむ。 ③ 行事等に向けてインターネットの情報と学校図書の情報を整理していくことで情報活用能力の育成を図る。
-------------	--

今年度の成果目標	達成基準
① 図書委員の「本紹介」や学校図書館の掲示を見て様々な分野の本に興味を持ち主体的に学校図書館を利用することができる。 ② 三種類以上の分野の本を読み、「読書カード」に記録する。 ③ 課題に応じて図書やインターネットを使い分け、調べたことに対して自分の考えを広げ深めて、表現することができる。	① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上 (昨年平均 9.53 冊) ② 各教科と連携して図書室を利用した授業を年 5 回実施 ③ 調べる学習コンクール参加

目標達成状況
① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上は達成することができた。(平均 17.3 冊) ② 調べる学習コンクール参加について、第2学年は参加させることができた。 ③ 今年度は「国語」の授業を通じて図書室を利用した。

第3学年	① 読書を通して読書が自分の生き方等に及ぼす効用について理解する。 ② 学校図書館での学習活動、調べる学習を通して、言語能力の向上を図るとともに、情報の信頼性の確かめ方を理解する。 ③ 学校図書を目的に応じて主体的に利用し、視野を広げる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
① 主体的に学校図書館を活用して読書や学習をすることができる。 ② 課題に応じて本や新聞、インターネット等を活用し、考えを論理的に表現することができる。 ③ 新聞等で社会について知り、興味をもったことについて図書館で情報収集し、自分の考えを深めて意見交換ができる。	① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上 (昨年平均 9.53 冊) ② 各教科と連携して図書室を利用した授業を年 5 回実施 ③ 調べる学習コンクール参加

目標達成状況
① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸出冊数平均 12 冊以上は達成することができなかつた。(平均 4.87 冊) ② 調べる学習コンクールは第3学年を参加させることができた。 ③ 今年度は「理科」の授業を通じて図書室を利用した。

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ① 寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を2月までに完了させる。 ② 生徒の希望を取り入れるだけでなく幅広い分野の蔵書を揃え、生徒の興味関心を広く持たせる。 ③ 廃棄図書を早期に確定させ、蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画をする。 ④ 「3桁分類」への転換作業を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・購入希望調査を行い、リクエスト図書を多く購入し、リクエストした生徒へ優先的に希望図書を貸出した。 ・「3桁分類」は、順次進めている。
【学校司書との連携・協働】 ① 図書館オリエンテーションの実施や図書委員会活動等、学校司書との積極的な連携、協働に取り組む。 ② 生徒のさまざまな興味関心に応える書籍を揃え、さらに多くの生徒が利用したいと思える図書館を運営する。 ③ 生徒が読書に興味関心を持つために図書委員を指導し、クラスで「本紹介」を実施するなど、図書館利用を活性化するにはどうしたらよいか検討し実行する。 ④ 「調べる学習」など、授業に必要な資料について積極的に学校司書への相談や情報交換を行う。 ⑤ 総合的な学習の時間に活用でき、キャリア教育に応えるた	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月10冊程度図書委員が選書し、クラスへ貸出している。 ・図書館にある本を図書委員が定期的にく「本紹介」しているが、本紹介用紙を個人で抱えてしまうこともあり、状況を聞きながら、日程など検討して進めた。また、図書館前廊下に掲示している用紙を立ち止まって読んでいる生徒が少数存在する。 ・事前に学校行事を把握し、学年やクラスに貸出し、展示などで資料活用の準備をした。

<p>めの職業・上級学校・資格取得のための蔵書を揃え、情報提供とともに本の貸出を受ける。</p>	
<p>【その他】</p> <p>① 生徒作品を地域図書館に掲示するなど地域図書館と連携し、読書への興味関心を地域とともに高める。</p> <p>② 紛失、破損への注意喚起をし、それらが無くなるよう取り組む。</p> <p>③ 地域図書館との「学習用図書」の配送サービスの活用を検討する。</p>	<p>・地域図書館との連携は怠っているが、「調べる学習」などで使用できるSDGs関連資料や校外学習用資料を購入し、いち早く活用できるよう準備している。</p>

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

新1年生向けのオリエンテーションを実施し、図書室の利活用方法について伝え、図書館や図書資料についての理解を深めさせた。

図書委員会活動では、＜本紹介(各クラスの図書委員2名が図書館にある本を用紙に記入し、クラス内で紹介。用紙は、各学年フロア、もしくは教室、そして図書館前廊下に掲示)＞を定期的実施した。苦手とする生徒もいるため、状況を把握し、コミュニケーションするよう努力した。

理科の授業では、「図書室を利用した調べる学習」を数回行っている。

本校では、テスト期間前にパワーアップタイムを実施しているため、自主学習室としての図書館利用は少ないが、「システム貸出回数」と「読書カード」記入上位者を表彰していることもあり、頻繁に図書を貸出返却する生徒がいる。

一方、読書をしない生徒に対する対応が課題である。読書に興味関心のない生徒や、苦手意識のある生徒に、読書の面白さを伝えていく効果的な方法を引き続き検討していく必要がある。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

一部の読書をしない生徒の興味・関心を高めるために、昨年度と同様に学校図書館を活用した授業やイベント（朝読書・読書月間・1年生ビブリオバトルなど）を実施し、生徒が学校図書館に関わり読書に親しむ機会をより増やしていく。加えて、学校図書館資料の整理や更新及び図書館内の展示や掲示の充実を図り、生徒がより利用しやすい環境を整備する。

また、教職員の学校図書館活用における意識にばらつきがあるため、学校長の指揮の下、職務に応じた役割を明確化し、学校全体に学校図書館基本計画等の学校の方針を浸透させることで、連携・協働しながら学校図書館運営を進める体制を来年度も構築していく。

これらの取り組みにより、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能向上を実現し、生徒が主体的に学校図書館を活用して読書・学習し、創造的な活動を行う環境を醸成していきたい。